

MMG（モバイル型地域博物館システム）の地域振興への応用

-住民参加型ワークショップとの連携-

Mobile Museum GIS for Rural Development

福与徳文

FUKUYO Narufumi

1. はじめに

MMG の地域振興への応用方法の一つが、集落環境点検など、住民参加型ワークショップのデータを搭載し、活用することである。集落環境点検は、住民が自分たちの地域を実際に歩き、地域資源（お宝）や問題点を見つけて点検マップ（お宝マップ）にまとめるワークショップで、住民自身が地域資源に気づき、それを活用して地域活性化につなげることを狙いとしている。住民が作成した点検マップのデータを GIS に搭載・蓄積し、モバイル端末で閲覧できるようにすれば、モバイル型「地域まるごと博物館」が構築されることとなる。本報告では、エコミュージアム（地域資源を磨き活用するまちづくり）による地域振興を、集落環境点検（お宝マップづくり）によって推進している茨城県常陸太田市を対象に、①住民が発掘した地域資源を GIS に搭載して MMG として機能させる方法を紹介し、②発掘された地域資源の特徴や、集落環境点検実施地区の特徴などから、常陸太田市における集落環境点検の効果に関して考察する。

2. 常陸太田市におけるエコミュージアムの推進

常陸太田市は茨城県北部に位置し、人口は 53,474 人（2014 年 2 月 1 日現在）である。2004 年 12 月に旧常陸太田市、旧金砂郷町、旧水府村、旧里美村の 4 市町村が合併し、南北 40km、面積 372.01 km² の県内で最大の新常陸太田市となった。同市はエコミュージアムによる地域づくりを推進しており、2007 年 12 月から集落環境点検（お宝探し）を、その具体的方策の一つとして実施している¹⁾。2014 年度末時点で、市内 20 地区で集落環境点検が実施され、1,000 を超える地域資源（お宝）が住民により発掘された。集落環境点検実施地区では、すべての地区で構想づくりワークショップも行われ、その成果として地区ごとに「元気に地区名」づくり計画」が作成されている。

3. 発掘された地域資源の MMG 化

地区ごとに作成された「元気に地区名」づくり計画」には、住民が作成した点検マップが（ワークショップのグループごとに）掲載されている。集落環境点検で発掘された地域資源は、点検マップ作成時点で、歴史・自然・

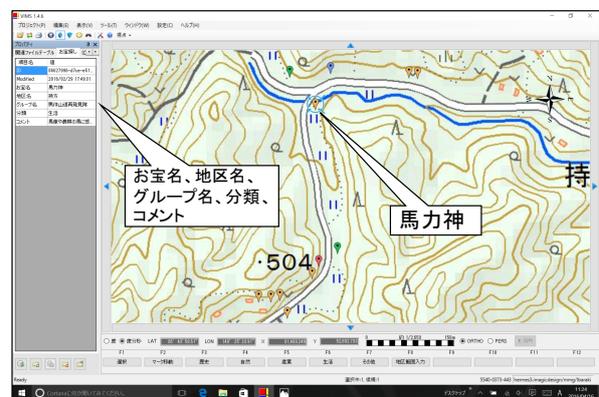


図1 MMGの表示例(常陸太田市持方)

茨城大学農学部 Ibaraki University College of Agriculture

キーワード：社会計画、集落計画、農村振興、中山間地域、測量・GIS

産業・生活資源に分類されており、付箋の色（橙：歴史、緑：自然、産業：青、黄：生活）によりそれがわかる仕組みになっている。したがって、その冊子体の情報を GIS（本研究では農地基盤地理情報システム VIMS を使用）上に搭載・蓄積し、それを Google Earth などで閲覧できるようにデータ変換することによって、MMG として機能するようになる。VIMS 上には、「お宝さがし」、「地区データ」の 2 つの属性テーブルを作成し、前者には①お宝名、②分類、③地区名、④グループ名、⑤コメント、⑥写真のデータを、後者には地区の統計データを搭載できるようにし、アイコンをタップすると当該資源に関するデータをモバイル端末から閲覧できる（図 1）。

4. 集落環境点検の効果

これまで住民が集落環境点検で掘り起こした地域資源は、常陸太田市教育委員会の集計によれば、2014 年度末時点で計 1,157 にのぼり、その内訳は、歴史資源が 497、自然資源が 270、産業資源が 123、生活資源が 198、その他が 69 である。

市担当者に集落環境点検実施地区（20 地区）の特徴を聞いたところ、「危機意識が高く、農家率の高い地域」という答えが返ってきた。「農家は、いつも（ウィークデーの昼間も）地域にいて、地域のことを考えているからだ」というのである。そこで集落環境点検実施率、農家率、過疎地域の指定状況を旧市町村別に見てみると、過疎地域の実施率が高いこと、農家率の高い地域(旧市町村)ほど集落環境点検の実施率が高いことがわかる（表 1）。過疎地域の実施率が高いことを「危機意識の高さ」を表し、「農家率の高さ」を「地域の事柄への関心の高さ」と解釈すれば、「過疎化に対する危機意識が高く、地域の事柄に関心のある住民の多い地域で集落環境点検が実施された」ということになる。

そして集落環境点検の地域活性化効果であるが、2014 年度末までに集落環境点検を実施した 20 地区のうち、2014 年度は 8 地区で何らかの活性化活動が行われている。集落環境点検実施地区のうち 40%が集落環境点検を契機に活性化に向けて動き出していることになる。

表 1 農家率と集落環境点検実施率

	旧常陸太田	旧水府	旧金砂郷	旧里美
農家率(%)	21.8	42.2	44.4	49.8
実施率(%)	7.2	22.7	29.1	44.4

注:アンダーラインは過疎地域

資料:平成20年版統計ひたちおた

5. おわりに

集落環境点検を契機に活性化活動を開始した 8 地区の特徴を市担当者に聞いたところ、「特にまとまりのある地域」という答えが返ってきた。集落環境点検の実施地区の特徴が、地域の事柄に関心のある住民の多い地域であったことと合わせて考えると、常陸太田市で実施された集落環境点検は、歴史・自然・産業・生活資源のほか、社会的資源(Social Capital)の在処を、(住民自身が気づかぬうちに)見つけ出していたことになる。MMG には地域資源のデータとともに各種統計データが搭載可能である。MMG には、当該地域を訪れた人がタブレット端末で地域資源データを閲覧しながら散策することを支援する機能のほか、集落環境点検など地域づくり手法の効果分析ツールとしても期待できる。

*本報告は、科研費基盤 (A)「地方創生に資するモバイル型地域博物館システム構築と地域個性に基づく運用手法開発」(課題番号 15H01907) による研究成果の一部である。

【参考文献】

- 1) 福与徳文『地域社会の機能と再生-農村社会計画論』日本経済評論社、121-141、2011